

科目名称：	子育て支援	
担当者名：	東方 珠美	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>保育者の行う日常の保育の基礎として、保育を通して子どもの最善の利益を護るために保育者として、全ての子どもの健やかな育ちを実現できるよう、保育者には何が求められているのかについて理解を深め、子育て支援の実践的な事項を学ぶ。</p> <p>子育ての支援の方法、技術を学び、相談、助言、情報提供、行動見本の支援を学ぶ。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>1、保育士の行う専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>2、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。</p>		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)		60		40	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 保育士	《経験年数1》 25年
	《内容2》 園長	《経験年数2》 2年
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で学んだ知識を活かして積極的に講義に参加できる	講義で学んだ知識を活かして講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせて考えることができる	講義で学んだ知識を組み合わせて考えることができない
子育て支援についての知識を深める	近年の子育て支援に問題意識をもち、自らの学びの中に積極的に取り入れる	近年の子育て支援に目を向け、自らの学びの中に積極的に取り入れる	近年の子育て支援に目を向け、自らの学びの中に積極的に取り入れる	近年の子育て支援に目を向けることができず、専門性が乏しい
学びへの積極性	話を聞く態度がよく、質問や意見を述べる	話を聞く態度がよく、質問や意見を時々述べる	話を聞く態度がよく、質問されれば答える	発表や意見を言うことができず、私語や居眠り等をしている

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 授業内容の説明と進め方 子育て支援を行うために(自己理解、他者理解)	保育実習で感じた、保育現場における子育て支援についてまとめておく。	40分
第2回 保育士として子育て支援を行うために (コミュニケーションの技法)	子育て支援の難しさについて考えておく。	30分
第3回 子どもの保育とともに進行保護者の支援 保育士の行う子育て支援とその実際Ⅰ	保育現場における子育ての専門性について考えておく。	30分
第4回 日常的、継続的なかわりを通じた保護者への支援	保育所保育指針の子育て支援について読んでおく。	30分
第5回 保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	現代社会における子育て家庭の現状を理解しておく。	30分
第6回 子育て支援のプロセス	現代の子育ての悩みについて検索しておく。	30分
第7回 事例で考える子育て支援のプロセス 確認テスト	現代の子育ての悩みについて検索しておく。	30分
第8回 保育士の行う子育て支援とその実際Ⅱ	保護者に子どもの姿を伝えるにはどのような方法があるのか考えておく。	20分
第9回 保育士の行う子育て支援とその実際Ⅲ(発表)	支援を実際の発表の準備しておく。	30分
第10回 地域の子育て支援の現状と実際Ⅰ(グループワーク)	子どもの発達過程と、年齢に応じた課題を理解しておく。	30分
第11回 地域の子育て支援の現状と実際Ⅱ(グループワーク)	子どもの発達過程と、年齢に応じた課題を理解しておく。	30分
第12回 障害のある子ども及びその家族に対する支援 特別な配慮を要する子ども及び家庭に対する支援	保育実習等でかかわった障害のある子への保育士の対応等をまとめておく。	30分
第13回 子ども虐待の予防と対応 要保護児童家庭に対する支援	虐待事件等のニュース等を検索し、事件の背景等を考えておく。	30分
第14回 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解 これからの時代の子育て支援	多様な支援ニーズを抱える子育て支援について、ニュース等を検索し理解する。	30分
第15回 子育て支援まとめ 小テスト	今まで学んだことを理解しておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
確認テスト・小テスト60%、授業内での取り組み・発表40%

課題に対するフィードバック

確認テスト・小テストは説明後、評価して本人に返却する。
授業内での課題については返却しない。

教科書・参考書

教科書：子育て支援 「子どもが育つ」をともに支える(北樹出版)教科書は毎回の授業で使用します
参考書：保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領